



**物忘れしても
笑顔の君が好き**

認知症川柳 最優秀賞

ペンネーム 亜依わかさ

明石を
「私、認知症
です」と
言えるまちへ

もくじ

- ◆ リポート地域活動
つながる緑が丘 / まないたお食事会 P 2
- ◆ 地域見守りあんしんプロジェクト(安否確認事業)
要援護者見守り SOS ネットワーク P 3
- ◆ キャラバン・メイト交流会 P 4
- ◆ **【特集】認知症川柳** P 5
- ◆ 地区社会福祉協議会 / 善意銀行 など P 6
- ◆ トライやる・ウィーク / フリー Wi-Fi の開設 P 7
- ◆ 令和6年度事業報告と決算 P 8



社会福祉法人

明石市社会福祉協議会

兵庫県明石市貴崎1丁目5番13号

明石市立総合福祉センター内

電話 (078) 924-9105 (代表)

FAX (078) 924-9109

<https://www.akashi-shakyo.jp/>

✉ info@akashi-shakyo.or.jp



明石市社協

検索



この『あかしの社会福祉』は、赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

- ◎ 各地域総合支援センター、市民センター、サービスコーナー、コミュニティ・センターなどにも設置しています。
- ◎ 気象警報の発令などにより、行事・イベントなどが中止・変更になることがあります。事前にお問い合わせください。
- ◎ 市外または携帯電話からのお電話・FAXの送信は、市外局番(078)からおかけください。

レポート地域活動



大久保北地区

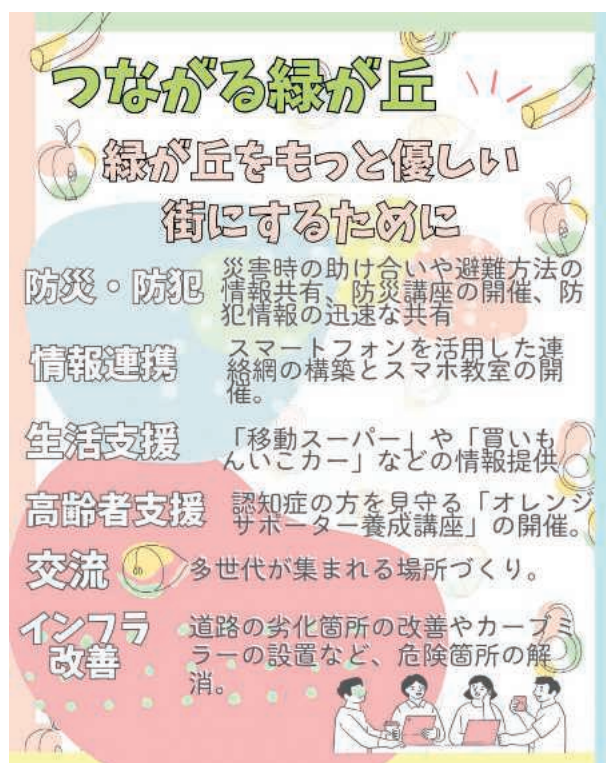
つながる緑が丘

皆が助け合える、つながりのある街へ。
気軽に声をかけ合える街を目指して

「つながる緑が丘」は、緑が丘地区の住民による話し合いの場です。「坂が多く、買い物や外出に困る住民が多い」という声から始まり、「誰もが安心して暮らし、孤立しない、顔の見える関係を築ける街にしたい」という願いのもと発足しました。

一人暮らしの方、高齢者、子育て中の方、障がいのある方など、あらゆる住民が「孤立せず、顔の見える関係を築ける街にしたい」。そんな願いを込めて、自治会とも協力し活動をすすめています。

活動は、「自分たちでできることはないか」と考えながら、少しずつですが着実に前進しています。



高丘地区

まないたお食事会

34年の長きにわたり地域を照らす
ボランティアが紡ぐ温もりと絆

平成4年(1992年)に始まった「まないたお食事会」は、地域に根差した活動を続ける団体です。毎月発行している「まないた通信」は「400号」を超え、みなさんのたのしみとなっています。

この活動を支えているのは、長年の経験を持つボランティアのみなさんです。最高齢85歳をはじめ、80歳代の方も複数名おり、季節の食材で作る温かい料理で地域を照らす「灯火」となっています。

しかし、活動には課題もあります。歩行が困難な方や物忘れのある方が一人で会場に来るのは難しいため、現在は、可能な範囲で電話や訪問による案内をおこなっています。

「まないたお食事会」は、食事を提供するだけでなく、「参加者を見守り」、「地域とのつながりを保つ」ための温かい支援をおこなっています。この活動は、私たちに「地域社会の絆」の大切さと、「世代を超えた支え合い」の美しさを教えてくれます。



「地域見守りあんしんプロジェクト(安否確認事業)」が始まり、 「3年」をむかえました

75歳以上のひとり暮らし高齢者や支援の必要な世帯に対して、「見守りサポーター」が月に1度、ご自宅を訪問し、健康状態や生活の状況をおうかがいする「地域見守りあんしんプロジェクト(安否確認事業)」が3年をむかえました。



サポーターさんと話すことが楽しく、地域のサロンや家族とのことを話しています。

近くに住む者どうしで話すきっかけにもなり、気かけあう関係になりました。

訪問の際には、健康飲料(「PLUSカルピス」(アサヒ飲料))をお渡ししています。

これまでサポーターが訪問し、みなさまとお会いするなかで、ご本人の様子が普段と違うことから、その異変に気付き、早期発見につながったことがありました。

対面の訪問をおこなうことで、みなさまと信頼関係ができ、さまざまなお相談を受けることが増えています。

これからも、ひとり暮らしをされる高齢者や支援の必要な世帯に対する見守りの一助となるよう、取り組んでいきます。

お互いの顔をみて、お話しができることに感謝しています。不在であっても、あらためて訪問してもらうことができ、体調などを近所の方とも話すきっかけになっています。



「要援護者見守りSOSネットワーク」へのご協力をお願いします

支援を必要とする要援護者(高齢者や障がい者など)を見守る『要援護者見守りSOSネットワーク』の協力者を随時募集しています。

協力者には、要援護者が行方不明になられた際に、行方不明者の情報を電子メールでお知らせしています。

この協力者は、行方不明者の捜索を依頼するものではなく、ご自身の日常生活(買い物や散歩など)のなかで「メールに書かれている特徴と似ているかも…」のように、気になる人を見かけた時にお声かけをしていただき、行方不明者の早期発見・保護にご協力いただくものです。



↑スマートフォン用



↑フィーチャーフォン用

※ ドメイン指定を設定している方は、「@akashi-shakyo.or.jp」からの電子メールが届くように設定をお願いします。

※ 福祉専門職の人は、別に申請書がありますので、そちらでご登録をお願いします。

▲ 協力者登録方法

二次元コードを読み取り、必要事項を入力し登録してください。

問合せ

地域支援課 ☎924-9106 FAX 924-9109

◎ 令和7年5月より、地域支援課の電話番号が 924-9106 に変わりました。

～認知症になっても安心して住める大久保の街を目指して～

キャラバン・メイト交流会

大久保地区で活動できるキャラバン・メイトは約70名!!

『キャラバン・メイトによる、キャラバン・メイトのための会』

おおくぼ総合支援センターでは、キャラバン・メイトに向けて年2回「勉強会」や「交流会」を開催しています。有志が集まったキャラバン・メイトと一緒に会を企画し、つながりづくりや情報交換の場となることを目指しています。

キャラバン・メイト



キャラバン・メイトとは…

「キャラバン・メイト養成研修」を受けた、地域のみなさんや、専門職の人達です。「オレンジサポーター養成講座」を企画し、講師をつとめる役割です。

講師

オレンジサポーター(認知症サポーター)



認知症への理解を広めるために…

認知症を正しく理解し、応援する人達です。認知症の理解を深めるために、「**オレンジサポーター**(認知症サポーター)」の養成講座を各地で開催しています。

講師のための情報交換や
情報収集の場になっています



交流会の様子

模擬講座を
開催し、わかりやすく伝える工夫を
学びました



勉強会の様子

様々な職種や経験を持った方が
集まり、意見交換しています

交流会でのアンケート

どのような方々に向けて講座をしてみたいですか？

小学生 4名	企業 5名	高齢者の方 5名
中学生 高校生 専門学生 4名	ボランティア団体 1名	その他 2名

参加したキャラバン・メイトのみなさんの感想

「他の参加者の体験談がきけて参考になった」
「講師に挑戦してみたい」
「わかりやすい講義ができるように、
もっと学んでみたい」

**認知症に対する正しい知識を
多世代の人に知ってもらいたい…**

キャラバン・メイトは、それぞれの想いを胸に活動
されています。

おおくぼ総合支援センターは、「オレンジサポーター」が地域で広まるよう、
講師役のキャラバン・メイトの活動をサポートしていきます!

問合せ

おおくぼ総合支援センター ☎934-8986 FAX 934-8987



認知症川柳

入選作品発表

～あたたかな日々の一句～

「認知症になっても安心して自分らしく暮らせるまちづくり」を目指し、令和6年10月に、認知症川柳を募集しました。127作品のご応募があり、川柳作家の大西泰世先生により20作品が入選作として選ばれました。認知症のご本人、ご家族、そして周りの方々、それぞれの思いが詰まった作品ばかりです。たくさんのご応募、本当にありがとうございました！

優秀賞

学びあい
支えあったら
皆笑顔

橋本 節子

大西先生の評

未知のことは学びあって、もしもの時は支えあう、これほど心強いことはありません

優秀賞

怖がらず
明るい老後
楽しもう

のほほん

大西先生の評

明日どうなるかなんて誰にも分らない、だからこそ今日の一日を明るく楽しく、ですね

家族会コメント

認知症になっても楽しく過ごせたらいいと思います

最優秀賞

物忘れ
しても
笑顔の君が好き

亜依 わかさ

大西先生の評

一番大切なその笑顔を残して下さったという感謝の気持ちが溢れるステキな一句です

家族会コメント

相手を思いやる心が伝わってきます

家族会賞

忘れても
笑顔があれば
それでいい

かなた526

家族会コメント

介護者の愛情が伝わってきます
何事にも笑顔が一番。そう願いたい

優秀賞

食べたのを
憶えていたね
ありがとう

ワンカラー

大西先生の評

単に覚えていた、とは違います。記憶の中にとどまっていた嬉しさです。美味しかったね

家族会コメント

まだまだ世間に認知されていない

家族会コメント

誰しものなる
可能性がある

家族会コメント

よくあることで、
納得してちょっとほほえましい



「家族会賞」の選考にご協力いただき、温かいコメントをいただきました、「認知症家族会「あった会」」、「介護ボランティアたんぽぽ」、「男性介護者のかたり場「だるま会」」のみなさまに厚くお礼を申し上げます。

認知症患う人に心寄せ
森岡 美代子
物忘れ増えても笑顔忘れない
金本 晴子
名は忘れ笑い忘れぬ祖母強し
なっちゃんま
忘れてもずっと続くよ家族愛
にこにこ
人の名をあいいうえおから思い出す
はるちゃん

脳トレは孫の教科書回し読み
郭 津雄
ものわすれもとに帰れば思いだす
くろすけ
行き交って挨拶楽し杖と杖
梶 悦子
恍惚の笑みに返した暖いハグ
岡島 錦子
脳トレにいつどんな事メモの癖
ズベ

この日だけなぜか頑張る認定日
幌惚腹鰯
母が言う娘と同じ名前だわ
クリ子ひめ
まかせてね夫婦だったら当然よ
くみちゃん
認知症世間話は予防薬
増田 富士雄
認知症我も行く道温かく
ちいちゃん
恍惚の笑みに返した暖いハグ
ズベ

問合せ

地域総合支援センター(市域事業担当)・地域支援課 ☎924-9106 FAX 924-9109

魚住地区 「西岡自治会」・「浜谷自治会」合同で 『オレンジサポーター(認知症サポーター)養成講座』と 明石高専の学生のみなさんと『スマホの相談会』を開催しました

令和7年2月15日(土)開催



認知症への理解を深め、基本的な知識や接し方を学ぶ「オレンジサポーター養成講座」を錦浦小学校区コミュニティ・センターで開催しました。

講座では、実際にあった事例をもとにグループで話し合い、「こんなときはどうする?」と意見交換をし、「安心できる環境づくり」などの意見がたくさん出されました。また、講座のなかで、指体操やリズム体操もおこない、和やかな雰囲気の講座でした。

後半は、明石工業高等専門学校(明石高専)の学生のみなさんのご協力により、「スマホの相談会」を開催しました。

相談会をとおして、自治会と明石高専のみなさんとのつながりが強まり、自治会のみなさんより、「普段、明石高専の学生と交流する機会がないため、うれしかった」との喜びの声が聞かれました。



オレンジサポーター養成講座

4ページでも紹介しています。

地区社会福祉協議会の総会が開催されました

地区社会福祉協議会は、地域の福祉課題の解決に向けて話し合い、具体的に活動をおこなっていく任意団体です。みなさまよりいただいた会費や赤い羽根共同募金の配分金により、明石市内では23団体が活動しています。

総会では、令和6年度におこなった、交流の場づくりや住民相互の見守り・支えあい活動について報告がおこなわれ、令和7年度の事業計画について協議されました。

身近な福祉活動を展開する地区社会福祉協議会の地域でのイベントなどに参加して、交流をしてみませんか。



▲ 魚住東地区社会福祉協議会



▲ 貴崎小地区社会福祉協議会

地区社会福祉協議会 (23地区)

- ・松が丘小
- ・人丸小
- ・錦城
- ・王子小
- ・貴崎小
- ・藤江小
- ・鳥羽小
- ・大久保
- ・山手小
- ・江井島
- ・魚住
- ・二見北小
- ・朝霧小
- ・中崎小
- ・大観小
- ・林小
- ・花園小
- ・和坂小
- ・沢池小
- ・大久保小
- ・高丘
- ・魚住東
- ・二見

みなさまの善意に感謝します!! 善意銀行

金銭預託 計16名 (759,463円)

- 中嶋 美貴 様・康文 様
- 貴崎小学校地区社会福祉協議会 様
- 谷八木友愛おしゃべりを楽しむ集まり 様
- 遺品整理のプラバーズ 様
- 日置運送株式会社 様
- 匿名11名

令和7年3月1日～6月15日(預託日順)

寄付時の
写真はコチラ



物品預託 計26名 (お米、食料品(アルファ化米を含む。)、日用品、介護用品など)

- KOHYO明舞店 様
- ニュークリエーションセンター 明石教会 様
- 株式会社マルハン 明石大久保店 様
- ふれあいプラザあかし西事務局ボランティア 様
- ヒラキ岩岡店 防犯室 様
- 川崎重工業株式会社 明石工場 様
- 生活協同組合 コープこうべ 様
- 匿名19名

物品払出 計10名

1週間の職業体験

トライやる・ウィーク
IN明石市社会福祉協議会総合福祉センターの仕事や
ボランティアを体験しました!

令和7年6月2日(月)～6日(金)

明石市立「望海中学校」と「大久保中学校」から、1名ずつの生徒が参加し、1週間の職業体験をおこない、総合福祉センターの仕事やボランティア体験をととして、さまざまな福祉活動を学びました。

望海中学校
杉本 麒仁 さん

相手の立場になることは、難しいけれども、
できるだけ、相手の事を想って行動したりしたとか、
コミュニケーションをとることが大切だと思いましたが、
そのための手段として、手話、点字、要約筆記があって、
それによって、ある事ができて良かったです。

サークルりんりん車いす体験▶



▲ あかし点訳グループ点字体験



▲ サウンドテーブルテニス体験

◀ ふれあい会食「よっといで」で
ボランティア体験

私はこの一週間で、たくさんの方と関わって、心から誰かのために
動こうという優しさであふれているなと感じました。あまり高齢の方や
障がいのある方と触れ合う機会がなく、緊張した部分もありましたが、
温かく迎えて下さることで、ばかりで、トライやるウィークをここで過ごせて
よかったなと思います。私もいつまでも温かい心を持ち続けたいです。

大久保中学校
船曳 彩音 さん

明石市立総合福祉センターでフリーWi-Fiが使えるようになりました!

館内のこのマークが
ある部屋が目印

使用できる場所 本館

- ◎ 各階 貸室内 *多目的体育室を除く。
- ◎ 2階 交流スペース

利用規約



社会福祉法人 明石市社会福祉協議会からのご報告

令和6年度(2024年度)事業報告と決算

重点事業の取り組み

①「住民と一緒に考え、誰もが参加できる地域福祉活動のしくみづくり」への取組

ボランティア・地域福祉活動に興味関心を持ってもらう方を増やす取り組みとして、学生等の若者世代に対する体験講座の開催、社会福祉法人と協働した施設でのボランティア活動講座の開催、コミュニティ・センターではじめての地域活動講座の開催など、様々な切り口で取り組みをすすめました。

また、地区社会福祉協議会と社会福祉法人が関わりを持つ機会として、「地域福祉フォーラム」を開催し、地区社協が取り組む活動、社会福祉法人が取り組む地域貢献活動の双方を共有することで、今後の協力体制を考えるきっかけとなりました。

石川県七尾市社会福祉協議会が開設した、七尾市災害ボランティアセンターへ職員2名を派遣し、災害ボランティアセンターの運営業務に従事しました。災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施し、災害時の混乱を想定しながら一連の流れを確認するとともに、改善すべき課題の抽出をおこないました。

②「住民の声を受け止め、寄り添う、包括的な相談支援体制の構築」への取組

地域で暮らす高齢者や障がい者、認知症の人やその家族、ヤングケアラー等複雑化・複合化した課題を抱える住民や世帯に適切な支援を実施できるよう、多機関や地域住民との協働による包括的な相談支援体制を構築する取り組みをおこないました。

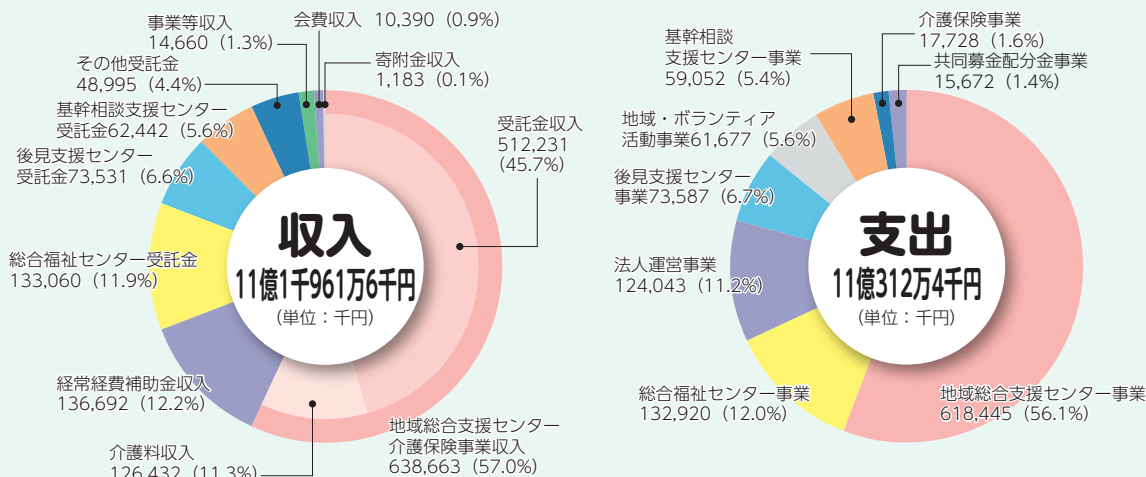
具体的には、本人の「生活のしづらさ」に焦点を当てた個別相談を強化するため、相談面接力向上研修を実施しました。あわせて、初期相談受付時のききとりシートの修正をおこない、経験の浅い職員もリスクマネジメントと緊急度の判断ができるよう取り組みました。個別相談からの課題解決に向けて、地域ケア個別会議を開催し、機関間の相互理解を促進するよう多機関で共有や協議をすすめました。

③「地域共生社会の伴走者であり続けるための、明石市社会福祉協議会の体制強化」への取組

本会の人事労務における課題対応として、人材確保や離職対策が求められるなか、令和6年度から新たに就職説明会検討チームを開催し、就職説明会では、31名の参加者がありました。社会福祉協議会職員としての仕事の魅力や就職後の自分自身のキャリアアップについて参加者にPRすることができました。さらに、大学新卒者を中心として採用試験受験者を増やすことができ、本会の人材確保につながりました。

居宅介護支援事業所等の廃止にともなう介護保険事業等運営安定積立金の廃止にあわせて、7つある基金、積立金を4つに整理統合し、基金等を柔軟かつ効果的に活用することができるよう見直しを図りました。

総合福祉センターの充実については、利用者の利便性の向上を図るため、フリーWi-Fi環境の提供(令和7年4月1日より稼働)を開始しました。また、地域総合支援センターと連携し、認知能力の低下がみられる利用者の温水プールなどの継続利用に向けた支援体制の強化や、権利擁護支援課と連携して、地域活動支援センター事業についての精神障がい者への情報提供と受け入れ体制の構築などをおこないました。



くわしくは
コチラ



問合せ

法人運営課 ☎924-9105 FAX 924-9109